

專門基礎科目

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済学入門 (Introduction to Economics)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1,2	前期	木1	経済学科教員 E-mail ich@oita-u.ac.jp (市原) 内線 7719
授業の概要	経済学部すべての学生を対象として、高校「政治・経済」で学習した内容から、大学専門教育への橋渡しを目標とし、経済学部における学習の基礎となる経済学の考え方ならび経済理論の政策への応用などについて学びます。				
具体的な到達目標					
目標1	経済学の考え方を説明できる。				
目標2	経済理論の政策への応用例について説明できる。				
目標3	資本主義の特徴、国民所得と景気、市場の役割、金融・財政のしくみの基礎事項を説明できる。				
目標4	労働問題、社会保障、日本・世界経済の歩み、国際経済について基礎事項を説明できる。				
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	資本主義の一般的傾向				
3	市場経済のしくみ				
4	国民所得と景気				
5	財政のしくみとはたらき				
6	金融のしくみとはたらき				
7	労働問題と労働関係				
8	社会保障制度のしくみ				
9	日本経済の歩み				
10	世界経済の歩み				
11	公害と環境保全				
12	貿易と国際収支				
13	地域主義の動き				
14	発展途上国と国際問題				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	授業前の課題や講義時のレポート・試験を実施し、内容についての理解を深めてもらいます。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	高校「政治・経済」の教科書の復習と予習課題の作成(20h)。			
	事後学修	講義内容の振り返り(14h)			
教科書	教科書は使用しません。随時資料を配付します。				
参考書	高校「政治・経済」の教科書				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	予習課題			40	
授業回ごとのテストまたはレポート			60		
注意事項	講義中の私語・携帯電話は厳禁です。				
備考	内容については変更の可能性があります。また、受講生を2クラスに分けて同時刻に開講するため、クラスによって授業の内容1～14までの順序が若干異なることがあります。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 をいかした 教育内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
初級ミクロ経済学 (Introduction to Microeconomics)					経済学Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修	2	1, 2, 3, 4	前期 後期	金 1 金 1	宇 野 真 人 E-mail munoo@oita-u.ac.jp 内線 7676
授 業 の 概 要	ミクロ経済学はマクロ経済学とともに理論経済学の基礎理論となるものであり、私たちの日常生活に深くかかわった経済問題を考える際の判断材料を提供してくれる。この講義では、ミクロ経済学の基本的なテーマである消費者や企業がどのように行動し、また市場でどのように価格や取引量が決定されるかについて理解することをねらいとする。				
具体的な到達目標					
目標 1	市場という概念について具体的なイメージを形成できる。				
目標 2	需要と供給の理論を理解し、価格形成について説明できる。				
目標 3	市場の役割と市場の問題点を説明できる。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ミクロ経済学とは				
2	需要と供給 1				
3	需要と供給 2				
4	需要と供給 3				
5	需要曲線と消費者行動 1				
6	需要曲線と消費者行動 2				
7	費用の構造と供給行動 1				
8	費用の構造と供給行動 2				
9	市場取引と資源配分 1 米価問題				
10	市場取引と資源配分 2 間接税の影響				
11	市場取引と資源配分 3 自由貿易の利益				
12	企業の参入・退出行動 1				
13	企業の参入・退出行動 2				
14	無差別曲線と効用				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	授業の最後に、まとめ等を記入してもらう機会を設けるようにする。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の目 安	準備学修	教科書・配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)			
	事後学修	教科書・配付資料や参考文献等を用いて復習する(15h)			
教科書	『ミクロ経済学 第3版』伊藤元重著 日本評論社				
参考書	講義中に適時紹介する。				
評 方 価 成 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	定期試験				70
	小テスト・レポート等				30
注意事項	講義中の私語は禁止する。違反した場合は・・・(´・ω・`) 詳細な注意事項は1回目の講義で説明する。				
備 考					
リン ク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で指 導に関わる 実務経験者 の有無					
教員以外の指 導に関わる 実務経験者 実務経験を いかした教育 内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
初級政治経済学 (Introduction to the Political Economy)					経済学Ⅲ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	1, 2, 3, 4	前期 後期	木 3 木 3 E-mail	海 大 汎 (非常勤講師) 内線
授業の概要	本講義では、「政治経済学」の初級編として、資本主義経の基本的な仕組みを理解することを目的とする。そのためにまずは、資本主義の母体となった西洋文明の大きな特徴を基にして、政治経済学(Political Economy)の成立背景について学ぶ。その上で、政治経済学の基礎概念と現代資本主義の構造・動態について学習する。まず前半では、市場経済および資本主義的生産過程を理解するための基礎知識を身につける。後半では、今日の資本主義経済を特徴づける金融危機をテーマとして、変貌する資本主義について考察する。				
具体的な到達目標					
目標 1	資本主義社会の特殊歴史性について理解する。				
目標 2	資本主義と市場経済との違いについて理解する。				
目標 3	現代資本主義における金融経済化について理解する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	はじめに				
2	市場経済と資本主義と近代市民社会				
3	市場経済を理解するための基礎知識				
4	市場経済を捉える論理 (1)				
5	市場経済を捉える論理 (2)				
6	貨幣の役割				
7	資本とは何か				
8	資本の生産過程と価値の実体規定				
9	資本主義の物神性				
10	市場経済は善玉か悪玉か				
11	資本主義 対 社会主義				
12	現代資本主義の金融経済化とグローバリゼーション				
13	脱資本主義の二つの局面 — 福祉国家と新自由主義				
14	新しい社会への展望				
15	まとめ				
アクティブラーニング	授業中の小テストやQ&A、講読、演習課題を実施し、授業内容についての理解を深めてもらいます。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	教科書の次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をチェックしておく。(15時間)			
	事後学修	講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。(20時間)			
教科書	『市場経済という妖怪 — 『資本論』の挑戦と現代』(2013)永谷清著, 社会評論社。				
参考書					
評価法・成績評価割合及び評価の	評価方法			割合(%)	
	・小テスト ・学期末レポート			40 60	
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外での指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経営学入門 (Introduction to Management)					経営学入門
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	1, 2, 3, 4	前期	火 3	藤原直樹・碓 邦生・鶴崎清貴・松岡輝美 E-mail nfujiwara@oita-u.ac.jp (藤原) 内線 7675 (藤原)・7711 (碓) kunioik2@oita-u.ac.jp (碓) 7687 (鶴崎)・7668 (松岡) kuzaki@oita-u.ac.jp (鶴崎) matsuoka-t@oita-u.ac.jp (松岡)
授業の概要	初めて経営学を学ぶ学生諸君に対して、専門基礎としての講義を意識して行います。また、専門経営学各論への橋渡しとしての役割を考慮して、幅広い講義内容を提供します。経営学の基礎知識を理解できるようにします。尚、コロナの感染状況によってはオンライン開催となります。その際には、受講生全員が「第A教室」のスケジュールで受講となります。				
具体的な到達目標					
目標1	経営学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。				
目標2	経営学の基礎的知識を理解し、説明できる。				
目標3	新聞・雑誌等の経営学用語を理解し、説明できる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	【第A教室】イントロダクション		【第B教室】 イントロダクション		
2	A 経営学の生成、テーマと問題の所在 (担当: 藤原)		B 組織と働く人の関係 (1) なぜ会社は従業員を雇うのか? (担当: 碓)		
3	A 経営学の生成、ドイツの事情 (担当: 藤原)		B 組織と働く人の関係 (2) 仕事のできる人は見抜けるか? (担当: 碓)		
4	A 経営学の生成、日本の事情 (担当: 藤原)		B 組織と働く人の関係 (3) 人生100年時代のキャリア (担当: 碓)		
5	A 組織と働く人の関係 (1) なぜ会社は従業員を雇うのか? (担当: 碓)		B 経営学の生成、テーマと問題の所在 (担当: 藤原)		
6	A 組織と働く人の関係 (2) 仕事のできる人は見抜けるか? (担当: 碓)		B 経営学の生成、ドイツの事情 (担当: 藤原)		
7	A 組織と働く人の関係 (3) 人生100年時代のキャリア (担当: 碓)		B 経営学の生成、日本の事情 (担当: 藤原)		
8	A 中間試験		B 中間試験		
9	A 外部講師による講演会		B 外部講師による講演会		
10	A コーポレートファイナンス入門Ⅰ (担当: 鶴崎)		B デジタルトランスフォーメーション (製造業における事例) (担当: 松岡)		
11	A コーポレートファイナンス入門Ⅱ (担当: 鶴崎)		B デジタルトランスフォーメーション (小売業における事例) (担当: 松岡)		
12	A コーポレートファイナンス入門Ⅲ (担当: 鶴崎)		B デジタルトランスフォーメーション (サービス業における事例) (担当: 松岡)		
13	A デジタルトランスフォーメーション (製造業における事例) (担当: 松岡)		B コーポレートファイナンス入門Ⅰ (担当: 鶴崎)		
14	A デジタルトランスフォーメーション (小売業における事例) (担当: 松岡)		B コーポレートファイナンス入門Ⅱ (担当: 鶴崎)		
15	A デジタルトランスフォーメーション (サービス業における事例) (担当: 松岡)		B コーポレートファイナンス入門Ⅲ (担当: 鶴崎)		
アクティブラーニング	授業毎に学生からの質問を受ける機会を設け、その内容についてフィードバックすることで、他の学生の意見を聞く機会を与える。特に実生活に応用可能な意見を多くとり上げ、受講生の応用力を高める。			その他の授業の工夫	講義資料や参考文献をMoodleに公開し、学習を促進する。尚、対面式の講義を行う場合には資料をmoodleではなく、印刷したものを配布することがあります。詳細は、各担当教員の初回講義にて説明があります。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	配付資料や参考文献等の情報が必要に応じて予習する(18h)。			
	事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い(20h)、講義において紹介した経済・経営関連知識を実際の生活場面と関連させて捉える(14h)。			
教科書	適宜講義資料を配布します。				
参考書	講義の進捗度に応じて適宜紹介します。				
評方成績割及評価び価の	評価方法			割合(%)	原則として、毎回出席をとります。三分の二以上出席しなければ試験の受験資格を失うことになります。尚、出席の取り方については担当教員によって異なります。(各担当教員の初回にて解説します)
	中間試験 前半担当教員 2名 各25%			50	
	学期末定期試験 後半担当教員 2名 各25%			50	
注意事項	1. 私語等授業の進行の妨げになる学生の受講は認めない。				
備考	1. 講義において、学術利用のアンケートを実施する可能性があります。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の 実務 経験	シンクタンクにおける幹部候補養成講座の講師兼システム設計アドバイザー(松岡輝美) 民間企業における人事領域の実務及び研究(碓)				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外での指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容	実際に設計や開発に携わったシステムについての紹介				

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
会計学入門 (Introduction to Accounting)					簿記 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	1, 2, 3, 4	前期	火 2	越智 学・小野 慎一郎 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp ono-shi@oita-u.ac.jp 内線 7700 (越智) 7691 (小野)
授業の概要	<p>会計は「ビジネスの言語」とよばれており、経済活動の中で、人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。そのため、基本的な会計用語の意味や会計情報の使い方は、2年次以降に所属する学科を問わず、経済学部の学生全員が理解しておく必要があります。また、経済社会には会計を専門とする職業(税理士や公認会計士など)があります。それらの職業を目指す人にとっては、体系的な知識を基礎から積み上げていくことが重要です。この授業では、会計学の体系とその基礎知識を学ぶことにより、今後の専門知識の学び方や自らのキャリアを効果的にデザインできるようになることをねらいとしています。</p>				
具体的な到達目標					
目標 1	会計の基本的な用語を、文脈に応じて適切に利用できる。				
目標 2	小規模企業の簿記一巡の手続き(日商簿記検定初級レベル)を行うことができる。				
目標 3	企業内部の経営者や企業外部の利害関係者の立場から、会計情報を使った初歩的な分析を行うことができる。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクション：簿記・会計とは				
2	簿記・会計の目的(1)：会計期間、貸借対照表				
3	簿記・会計の目的(2)：損益計算書				
4	会計報告書の作り方(1)：取引と勘定記入				
5	会計報告書の作り方(2)：仕訳と転記				
6	会計報告書の作り方(3)：商品売買の記帳(1)				
7	会計報告書の作り方(4)：商品売買の記帳(2)				
8	会計報告書の作り方(5)：現金・預金、貸付金・借入金の記帳				
9	会計報告書の作り方(6)：その他の資産・負債の記帳、仕訳帳と総勘定元帳				
10	会計報告書の作り方(7)：試算表の作成と月次の集計				
11	会計報告書の作り方(8)：決算と貸借対照表・損益計算書の作成				
12	会計情報の使い方(1)：財務諸表の構造と入手方法				
13	会計情報の使い方(2)：企業外部の利害関係者による財務諸表分析				
14	会計情報の使い方(3)：企業内部の経営者による経営状況の分析				
15	簿記・会計と職業(公認会計士の先生を招いた講演会を予定)				
アクティブ ラーニング	<p>講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む)、授業後の復習課題(授業に対する質問・感想・要望の記入欄を含む)</p>	その他の 授業の工夫	公認会計士等の実務家を講師として招聘し、講義内講演会を実施する予定である。実際の業務に関する講演を聞くことにより、会計専門職に関する知識を習得するとともに、今後の学習意欲を高める。		
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する(7h)。			
	事後学修	復習課題を解く(13h)。期末試験に向けた学習を行う(15h)。			
教科書	資格の大原(2021)『大原で合格する日商簿記3級(第3版)』中央経済社。(後期の「初級簿記」の教科書としても使用します。)				
参考書	<p>谷武幸・桜井久勝・北川教央(2021)『1からの会計(第2版)』碩学舎・中央経済社。 滝澤ななみ(2022)『みんなが欲しかった簿記の教科書 日商3級 商業簿記(第10版)』TAC出版。 滝澤ななみ(2022)『みんなが欲しかった簿記の問題集 日商3級 商業簿記(第10版)』TAC出版。</p>				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	提出課題			25	
	期末試験			75	
注意事項	第2回目以降は毎回、電卓を持参すること。情報基盤センターの学習支援システム「Moodle」を使って演習問題の解答・解説などを配布するので、User IDとPasswordを確認しておくこと(Webメール等と同じものです)。				
備 考	後期の「初級簿記」とは連動するため、併せて履修することが望ましい。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
法学入門 (Introduction to Juris prudence)					法学入門
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修	2	1, 2, 3, 4	後期	木 1	金 康 浩 E-mail kimkangho@oita-u.ac.jp 内線 7717
授業の概要	法学関係の科目を学ぶための導入として、法学への興味と関心を引き出すとともに、公法・私法それぞれの分野の基礎的な事項について学ぶことをねらいとします。				
具体的な到達目標					
目標 1	個別法を学ぶにあたって必要な法学の基礎的知識を習得する。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	法の基礎				
2	憲法 1				
3	憲法 2				
4	憲法 3				
5	行政法 1				
6	行政法 2				
7	行政法 3				
8	私法の基礎				
9	民法 1				
10	民法 2				
11	商法 1				
12	商法 2				
13	商法 3				
14	民事訴訟法 1				
15	民事訴訟法 2				
アクティブ ラーニング	裁判例や具体的事件などを取り上げながら、理論的知識の定着を図ります。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	裁判や法に関する新聞記事やニュースを見聞きする。(15h)			
	事後学修	配布資料・教科書(六法)を用いて、復習する。(15h)			
教科書	講義中に指示します。				
参考書	小川富之・下田大介編著『法学一人の一生と法律とのかかわり一』(八千代出版、2018年)				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	期末テスト			100	
注意事項	他人の迷惑となる行為(特に私語)を禁止します。				
備 考	両担当教員が上記の内容を分担して講義します。したがって、クラスにより上記の順番とは異なります。				
リン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
地域学入門 (Introduction to Regional Studies)					地域研究入門
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修	2	1, 2, 3, 4	後期	火 3	宮町良広・大呂興平・城戸照子・高島拓哉 包 聯 群・山浦陽一 ほか E-mail ymiya@oita-u.ac.jp (宮町) 内線 7684 (宮町)・6751 (大呂) ohro@oita-u.ac.jp (大呂) 7946 (城戸)・7678 (高島) tkido@oita-u.ac.jp (城戸) 7724 (包)・7734 (山浦) tataka@oita-u.ac.jp (高島) blianqun@oita-u.ac.jp (包) yamaur@oita-u.ac.jp (山浦)
授業の概要	経済・社会を学習・研究する際、「地域」という切り口はきわめて有効なものの1つである。本授業では、経済学部生が「地域」に関わる学習・研究を進める際に、基本として修得すべき知識や考え方、および学習方法について教授する。地域学に対する興味や関心をはぐくみ、「地域学はおもしろいな。自分もやってみよう」と受講生が思うようになることを目的とする。各担当教員がリレー方式で講義を担当し、7人で合計15回の授業を行う。				
具体的な到達目標					
目標1	地域の経済・社会・文化をとらえるための基本的考え方を理解し、説明できる。				
目標2	地域学のための基本的な手法やスキルを身につけ、レポート等で文章表現できる。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	地域の現象とフィールドワーク (1) (大呂担当)				
2	地域の現象とフィールドワーク (2) (大呂担当)				
3	地域学レポートの書き方 (大呂担当)				
4	地域における多文化共生 (1) (城戸担当)				
5	地域における多文化共生 (2) (城戸担当)				
6	地域と企業の関係性 (1) (担当未定)				
7	地域と企業の関係性 (2) (担当未定)				
8	地域社会における社会と空間 (1) (高島担当)				
9	地域社会における社会と空間 (2) (高島担当)				
10	地域における多言語景観と多言語サービス (1) (包担当)				
11	地域における多言語景観と多言語サービス (2) (包担当)				
12	地域学は地域への好奇心から始まる (宮町担当)				
13	地域学と地域活性化 (宮町担当)				
14	地域としての農村 (1) (山浦担当)				
15	地域としての農村 (2) (山浦担当)				
アクティブ ラーニング	次の項目の中から担当者が授業方式に合わせて実施する。質疑応答と全体共有、授業終了前のミニツペーパー、アンケート			その他の 授業の工夫	関連文献や参考Webサイトの情報 提供による調べ学習
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	各担当者が指示する。(30h)			
	事後学修	各担当者が指示する。(15h)			
教科書	各担当者が指示する。各自でのプリントが必要な場合がある。				
参考書	各担当者が指示する。				
評 方 成 価 法 績 制 及 評 合 び 価 の	評価方法		割合(%)	各担当者が示した7つのレポート課題のうちから、3つの課題を選ぶ。分量は1課題につき1000字程度とする。合計得点6割以上で合格。指定の表紙を利用し、使用した文献・HP等の出典を明記すること。無断引用はや他人と同一のレポートは不合格とする。	
	レポート(3課題)		100		
注意事項	本授業は定刻開始、定刻終了します。受講生は授業開始前に着席してください。また途中退室を禁じます。				
備 考	担当者の順番は変わります。オンラインまたは対面(密を避けるため2教室に分割)で実施します。不明な点は気軽に質問してください。各担当者のオフィスアワーを活用してください。				
リン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
イノベーション・マネジメント入門 (Introduction to Innovation Management)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修 ※社会イノベーション学科は必修	2	1, 2, 3, 4	前期	火 5	金子 創・松隈久昭・渡邊博子・豊島慎一郎・中本裕哉 E-mail skaneko@oita-u.ac.jp (金子) 内線 7701 (金子)・7680 (松隈) himatsu@oita-u.ac.jp (松隈) 7702 (渡邊)・7708 (豊島) watanabe-hr@oita-u.ac.jp (渡邊) 7677 (中本) stoy@oita-u.ac.jp (豊島) y-nakamoto@oita-u.ac.jp (中本)
授業の概要	イノベーションに関連するさまざまな理論をこれから学ぶ学生の皆さんに、専門基礎科目として幅広く講義していきます。イノベーションの担い手としての企業に着目した経営学からのアプローチだけでなく、イノベーションが経済におよぼす影響等についての経済学からのアプローチ、イノベーションが社会におよぼす影響等についての社会学からのアプローチも概観します。これらを通して、イノベーションをさまざまな角度からとらえることができるようになるのが本講義のねらいです。				
具体的な到達目標					
目標1	イノベーションに関連するさまざまな基礎的な専門用語や概念を理解し、説明できる。				
目標2	イノベーションに関連する具体的な事例について、さまざまな角度から解釈し、説明できる。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション (金子)				
2	A教室: イノベーションと経営 1 (松隈)	B教室: イノベーションと経営 4 (渡邊)			
3	A教室: イノベーションと経営 2 (松隈)	B教室: イノベーションと経営 5 (渡邊)			
4	A教室: イノベーションと経営 3 (松隈)	B教室: イノベーションと経営 6 (渡邊)			
5	A教室: イノベーションと経営 4 (渡邊)	B教室: イノベーションと経営 1 (松隈)			
6	A教室: イノベーションと経営 5 (渡邊)	B教室: イノベーションと経営 2 (松隈)			
7	A教室: イノベーションと経営 6 (渡邊)	B教室: イノベーションと経営 3 (松隈)			
8	中間試験				
9	A教室: イノベーションと社会 1 (豊島)	B教室: イノベーションと社会 4 (中本)			
10	A教室: イノベーションと社会 2 (豊島)	B教室: イノベーションと社会 5 (中本)			
11	A教室: イノベーションと社会 3 (豊島)	B教室: イノベーションと社会 6 (中本)			
12	A教室: イノベーションと社会 4 (中本)	B教室: イノベーションと社会 1 (豊島)			
13	A教室: イノベーションと社会 5 (中本)	B教室: イノベーションと社会 2 (豊島)			
14	A教室: イノベーションと社会 6 (中本)	B教室: イノベーションと社会 3 (豊島)			
15	まとめと振り返り				
アクティブ ラーニング	試験やレポートの作成を通じて理解が深まることを期待します。またそれらの実施に先立って双方向の質疑応答・議論の時間を確保します。その他、動画やLMS(Moodle)を活用します。			その他の 授業の工夫	随時、講義の中で具体的なイノベーションの事例を紹介します。その事例についてさらに文献やインターネット等で深く学んでください。
時間外学 修の内容と 時間の 目安	準備学修	イノベーションに関連する記事やニュースを見聞きしてください(10h)。また、その現場を実際に見てみるようにしてください(5h)。			
	事後学修	講義で紹介したイノベーションに関する理論について、書籍等で復習とさらなる学習をしてください(20h)。また、現実との関連性を考えてみてください(10h)。			
教科書	適宜プリントを配付します。				
参考書	・一橋大学イノベーション研究センター編(2001)『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社。 ・近能善範・高井文子(2011)『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社。 その他、適宜紹介します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	・教員ごとに試験ないしレポートを課します。各教員が授業で扱った内容のすべてが出題範囲となります。 ・毎回出席を取ります。3分の2以上出席しなければ受験の資格を失うことになります。
	各教員の試験、レポートの総合評価			100	
注意事項	・講義マナーを守って受講してください。 ・対面で開催する場合は、学籍番号で2つの教室に分けて講義を進めます。				
備 考	・2017年度以降の入学生のみ受講可能です。 ・情勢に応じてオンラインでの実施に切り替える可能性があり、その場合は2つに分けずに講義を進める予定です。 また、試験の実施の有無や方法についても変更の可能性あります。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験を いかした教育 内容					